

2014年9月20日

2014年度日本語教育史研究会

1930年代～1940年代初頭の上海に於ける日本語普及

酒井順一郎（長崎外国語大学）

1. 緒言

- ・孫安石「戦前中国における日本・日本語研究に関する資料の調査報告」

『神奈川大学言語研究』25 2003年

1930年代、中国で空前の日本語ブームが到来

⇒①1930年代全般なのか

②地域性 抗日運動・テロ、事変、ビジネス、日本語活字文化

③「対日協力政権」1930年代後半～1940年代初頭

2. 日本にとって上海とは

表-1 上海共同租界主要外国人人口推移

	1910年	1915年	1920年	1925年	1930年	1935年
日本	3,361	7169	10,215	13,804	18,478	20,242
英国	4,465	4,882	5,341	5,879	6,221	6,595
露西亜	317	361	1,266	1,766	3,487	3,017
印度	804	1,009	1,954	2,154	1,842	2,341
米国	940	1,307	1,264	1,942	1,608	2,017
仏国	330	244	316	282	198	212
外国人総数	13,536	18,519	23,307	29,997	36,471	38,915

【出典】高綱博文『「国際都市」上海のなかの日本人』2009年研文出版より酒井作成

・幕末期

「西洋」体験、「文明」の衝撃、反植民地的な現実

上海＝「反面教師」、「近代国家覚醒」、「西洋」と「文明」の「中継地」

・明治以降

日本⇒「文明開化」、「国民国家」

上海の新役割：膨張日本の大陸進出のための「基地」

「閉塞的」な日本⇒上海「ロマン」「冒険」の夢を実現する存在

・長崎

3. 上海に於ける日本語普及とは

3-1. 第一次全国教育会議と日本語ブーム到来

- ・1934年12月28日『讀賣新聞』

米村耿二「近頃支那の種々相 (一) 日本語万歳! 出世の近道 - 日支提携に動く若き支那の近代相」

日本語! 日本語! いまや世界を擧げての、わが日本語研究熱の旺んなことはどうだ - といふも過言ではあるまい。

特に新興國滿洲國誕生以来、そして華北停戦協定の成立を契機に中學生を中心とする若き支那の青年男女の間における日本語熱は文字通り素晴らしいものである。「日支問題を口にする前に、先ず日本語を學べ! そして日本の書籍を読破しろ!」これが最近の若き支那の叫びである。

このごろ上海市内に、日語教授の看板が、ふえたことふえたこと。そしてひところの排日貨の物凄い波を乗り越え押し切つて、来るわ来るわ? 一ヶ年にしてざつと三百万円ばかりの膨大な日本書籍が、上海市だけでも消化されつつある有様である - これは北四川路の古い日本書籍店の内山店主の言なのだから間違いない事實だ。

これまで中學校を卒業しても、仲々いゝ就職など思ひも寄らなかつた若い人達が、新に日本語を勉強して、新興國滿洲國いはゆる王道樂土へ乗り出さうといふ、これこそこの人達にとって、恵まれたる新しい出世の近道に外ならぬのである。

- ・内山完造『そんへえ・おおへえ』岩波書店 1949年

國民政府全國教育大會に於いて、英語廢止日本語採用の提案があつた。流石にこれは否決された。そして劉大白先生提案に依る中等學校に日本語科を正科として加へることが滿場一致で通過したと云ふことが、一層日本語熱を盛んならしめることになり、ここかしこにも日本語教授とか日本語學校とか云ふ看板が見られる様になつた。

- ・1928年5月15日~5月28日
第一次全國教育會議 (南京開催)、中華民國大学院主催

- ・1928年5月15日、18日『申報』
范壽廉 提案
中等師範學校及び中等職業學校
外國語科目に日本語を課す ⇒ 決議

3-2. 日本語學習の目的

- ・第一次教育會議
菊沖徳平『支那人の日本語研究』太平出版印刷公司 1944年

イ 現在中等師範學校、職業學校は外國語として英語を課してゐるが、學生は卒業後上級學校に進む者は少なく、また學習も日本語に較べて難解であり、ほとんどその効果を認められ

- ない。若し日本語を課すならば、實社會に出て活動しながら日本語を學ぶことが出来る。
- ロ 日本語の書物には歐米の翻譯書も多く、學生の参考書も十分に求めることが出来る。
 - ハ 歐米の書物に比較して日本の書籍は價格低廉なること。

平塚益徳『近代支那教育文化史』目黒書店 1942 年

學校の機會ある毎に國恥事實を教授し、支那第一の仇敵は何國なるやを知らしめ、これを反復熟知せしむること第一仇國を打倒する方法を教師學生共同して研究すること

- ・上海の中国人が日本語を学習した理由
外務省情報部『密 支那人ノ日本語及日本事情研究狀況』1930 年

支那人カ日本語ヲ研究セントスル主ナル目的ハ

- (一) 日本ニ留學セントスルモノ
- (二) 日本關係ノ事業ヲ經營セントスルモノ
- (三) 日本ニ於ケル書籍新聞雜誌ヲ閱讀セントスルモノ
- (四) 日本人商社ニ雇傭セラレンコトヲ希望スルモノ

就中第三項ノ目的ヲ日本語ヲ習得セントスルモノ最モ多數ヲ占メルモノノ如シ

- ・1927 年 4 月 12 日、蔣介石、上海で反共クーデター
思想弾圧及び文化制限
- ・円本ブーム 1926 年、改造社
内山書店

表 - 2. 1936 年～1937 年の一ヶ年に於ける上海の 3 書店の売り上げ (単行本)

書店名	1 ヶ年の冊数	一ヶ年の金額	日本人購読者比率	中国人購読者比率
内山書店	100,000 冊	200,000 弗	30%	70%
日本堂	4,000 冊	6,000 弗	100%	—
至誠堂	13,500 冊	25,000 弗	85%	15%

【出典】『上海地方ノ日本図書及日本語ニ関スル上崎司書ノ視察報告』1937 年 3 月より酒井作成

表 - 3. 1936 年～1937 年の一ヶ年に於ける上海の 3 書店の売り上げ (雑誌)

書店名	1 ヶ年の冊数	一ヶ年の金額	日本人購読者比率	中国人購読者比率
内山書店雑誌部	18,000 冊	9,000 弗	65%	35%
日本堂	120,000 冊	60,000 弗	80%	20%
至誠堂	54,000 冊	27,000 弗	100%	—

【出典】『上海地方ノ日本図書及日本語ニ関スル上崎司書ノ視察報告』1937 年 3 月より酒井作成

4. 日中戦争以降の上海に於ける日本語普及状況

4-1. 「中華民國維新政府」

- 1937年12月 日本軍特務部 西村展蔵 上海市大道政府設立
1938年3月 「中華民國維新政府」設立、督弁上海市公署改名
同上年10月 上海特別市政府、對外弁公改名

- 1939年6月29日 傅宗耀上海市長 施政方針
上海档案馆編『日偽上海市政府 上海檔案史料叢編』檔案出版社1986年

中，日，滿三國，同種同文，關係至為密切，自當互相幫助，互相提携，共存共榮，通力合作。以確保業之和平。

- 1940年4月『上海特別市政府姿勢綱要』
上海档案馆編『日偽上海市政府 上海檔案史料叢編』檔案出版社1986年

教育之盛衰与国家之强弱大有关系，故东西各国，除注重量的方面外，尤注重于质。学校虽多，类多腐败。自今以后，除扩充学校外，尤须注重于训导，如注重道德教育，根据古圣遗训，将我国固有之道德；孝，悌，忠，信，礼，义，廉，耻，实施训练学生，以成良善之国民，及促进中日亲善，使学子认识中日之关系，而引起对日之同情也。

- 1938年5月25日陳羣「中華民國維新政府」教育部長
維新政府教育部顧問室『維新教育概要』1940年

根本方針トシテハ東亞固有文化ノ發展ヲ計ルト共ニ世界ノ科學知識ヲ吸收、採擇シ、思想ノ健全化ニ努メ、又體育ノ向上ニ努力スル點ニ重點ヲ置キ
日本語、英語ヲ必須課目トスル

- 1938年5月7日
「中華民國維新政府」最高顧問
原田熊吉陸軍中將 「中華民國維新政府」へ覚書
曹必宏，夏軍，沈嵐『日本侵華教育全史』第3卷人民教育出版社2005年

鉴于建设东亚新秩序，两国国民均属东亚协同体之构成分子，为促进强化双方之协同团结起见，对于彼此国语互相通晓，之关紧要，所有中小学亟应以日语教育。

- 「中華民國政府」
維新政府教育部顧問室『維新教育概要』1940年

中日親善ノ基ヲナスモノハ兩國文化ノ交流ト相互ノ理解トニ在リ、理解ノ方法ハ言語ト文章トニ在リ學校教育ノ分野ニ於テハ暫行小學規定中、初級小學ニ於テハ日本語ヲ隨意科目トシ高

級小學ニ於テハ必須課目中ニ加ヘ毎週三時間ヲ課スベキコトヲ規定シ、暫行中學規定中、中學ニ於テハ日本語ヲ基本課目トシ毎週五時間乃至三時間ヲ課スベキコトヲ規定セリ

- ・強引な日本語教育に対する上海の反応
1938年10月15日『申報』
「日軍奴化北平教育（上）」

我們疾首痛心，日烈髮指的，要算是日人對北平教育的蹂躪了

4-2. 「中華民國国民政府」

- ・1939年3月20日 汪精衛（代理主席）「中華民國国民政府」樹立宣言
- ・1940年7月6日 日本支那派遣軍總司令部 ⇒ 汪精衛 書簡
費正，李民，张家驥『抗战时期的伪政权』河南人民出版社1993年

要求为教育部将日语列为中小学必修课，并声称此举是对日本亲善程度与真诚的重要评志

- ・清水董三（興亜院文化局局长・駐華大使館書記官長）
私人名義 何度も教育部部長の趙正平を訪問
曹必宏，夏军，沈岚『日本侵华教育全史』第3卷人民教育出版社2005年

改进各政宜采渐进，免致日方惊疑

- ・「中華民國国民政府」教育部
曹必宏，夏军，沈岚『日本侵华教育全史』第3卷人民教育出版社2005年

一再考虑，为兼筹并顾起见，拟在小学课程中，不列外国语，而于课程表中附加一条说明，外国语以不授为原则，但于大都市区域，衣实际需要，高年级得于正课外补授外国语日语或英语。至于初级中学以上，则列为必修科

- ・1940年7月 教員養成所・日語專修班廢止
- ・対日政策「一面抵抗、一面交渉」
- ・「一面抵抗、一面交渉」限界
上海特務機關管轄下 54の小学校 日本語教育

表 - 4 「中華民國維新政府」下の中学校外国語科目時間数

		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年	
		第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
男子 中学	日本語	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
	英語	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
女子 中学	日本語	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
農業 中学	日本語	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
工業 中学	日本語	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3
	英語	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
商業 中学	日本語	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4
	英語	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

【出典】菊沖徳平「最近中支の日本語教育」『日本語』第1巻第5号 1941年より酒井作成

表 - 5 「中華民國政府」下の師範学校、高級中学校、初級中学校外国語科目時間数

		第1学年		第2学年		第3学年	
		第1学期	第2学期	第1学期	第2学期	第1学期	第2学期
男女師範 学校	日本語	3	3	3	3	3	選択科目
	英語	3	3	3	3	3	
高級中学	日本語	2	2	2	2	2	2
	英語	4	4	4	4	4	4
初級中学	日本語	3	3	4	4	4	4
	英語	3	3	4	4	4	4

【出典】菊沖徳平「最近中支の日本語教育」『日本語』第1巻第5号 1941年より酒井作成

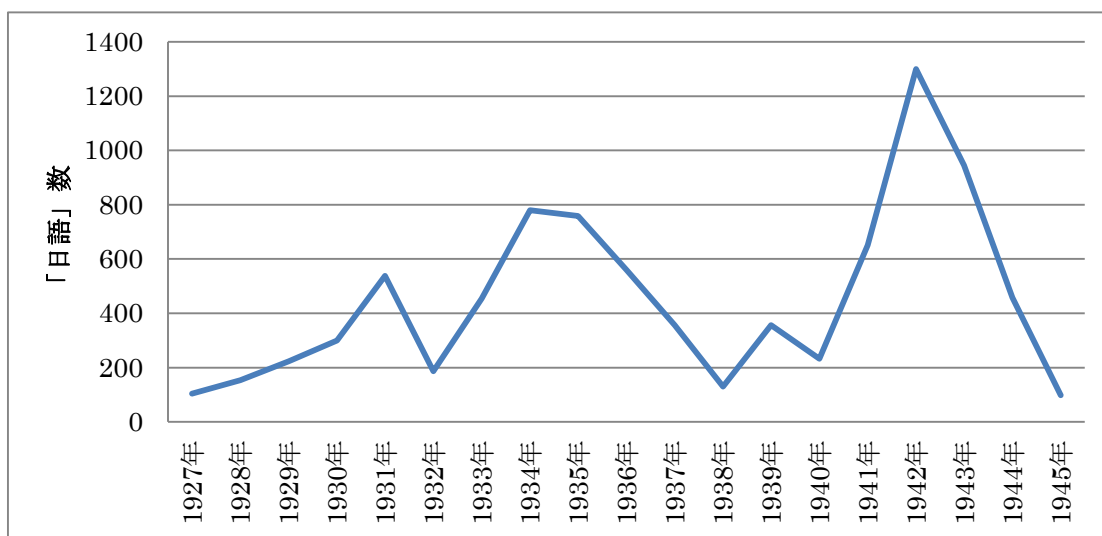
・興亜院

「第六表 上海特務機關管下各級學校日本語普及状況一覽」興亜院華中連絡部『中支ニ於ケル日本語教育ニ關スル調査報告』1941年

維新政府時代ニ比較シ、或ハ北支ニ比較シ更ニ現地ノ實際ニ見ルニ行政的特殊ニ基ク日本語教育ノ困難性ヲ痛感セザルヲ得ズ

5. 『申報』 から見た日本語への関心

図 - 1 『申報』 に於ける「日語」使用数推移 (1927年～1945年)



【出典】『申報』(1927年～1945年)より酒井作成

*1927年～1932年

1931年まで順調に増加

内山完造『そんへえ・おおへえ』岩波書店 1949年

日本語の夜学校や教授所が澤山に出来る様になつて、また會話書とか文法とかの書物も澤山出た

・外務省情報部『密 支那人ノ日本語及日本事情研究狀況』1930年

1930年上海に於ける日本語学習者数

最小限度六千名以上

個人教授：数百名程度

教育機関で学ぶ者：5,740名

教育機関数：38機関

中国人経営機関：33機関

日本人経営機関：3機関

閉鎖中：2機関

・内山完造、創造社の鄭伯奇と日語学会 設立

・満洲事変、第一次上海事変

内山完造『花甲録』岩波書店 1960年

日とともに学生達は減って来るばかりでなく、こうした時に経営を継続するのは何んだか無理

なように思えて来たので、鄭先生とも相談したところ、一時休んだ方がよかろうとの事で、遂に休校を発表した。それきり日語学会は再起出来なかったのである。これは私としては実に終生の遺憾とするところである

*1932年～1938年

1934年まで再び急増

外務省情報部文化事業部『三増英夫調 中華民國ニ於ケル日本語研究ノ現況 (附 日本近代科
學圖書館論)』1937年

上海ニ於テモ華北同様日語研究熱ハ抗日ノ風潮著シキニ拘ラス増大ノ勢力ヲ示シツツアリ
對日關係ニ關スル認識ノ正確ヲ期スル爲、日語ヲ學習シ直接日語書籍ニ就ク

・1934年～1936年 上海の日本人数は減少

・1937年 盧溝橋事件 第二次上海事変

・1935年12月12日 上海の知識人『救国運動宣言』発表

同年同月13日 上海学生救国連合会

同年同月18日 上海文化界救国会

1936年5月29日 全国学生救国連合会

同年同月31日 全国各界救国連合会

*1938年～1940年

1939年7月17日、傅宗耀上海市長は教育局への公文書

上海档案馆編『日伪上海市政府 上海档案史料丛編』档案出版社1986年

案据南汇区公署程称；窃准特务机关南汇班中下班长面称，现为适应需要，特别设日语速成
学校一所，免费招收学员，业经足额，已于本月十六日开学。校址暂假周浦第七小学校，由高田先
生担任教授。

維新政府教育部顧問室『維新教育概要』1940年

一般人への日本語普及は十分ではない

*1940年～1942年

1942年10月27日『申報』

最近學日語的風氣流行一時，一般較大的機關都聘請飽學之士，教授日語，以廣見識，而利工
作，甚至外僑人士也有非常熱心，日語教師大有求過於供之勢了。(中略)現在虹口的黃包車夫，日
語的幾元幾角及什麼路等已經說得熱極而流了

若江得行『上海生活』大日本雄弁会講談社 1942年

當節、又、華人の間に随分日本語熱が高まつて來てゐるから、老胡開文の番頭などは、こちらが一寸でも暇な顔でもして見せると、矢繼早に根掘り葉掘り日本語に對する質問をするのである。この一番甚だしいのは、大新公司の酒家（＝食堂位の意味）の或るボーイであつて、私を日本人と見て、行く度に日本語の發音を教はらうとする。半分はお愛想かも知れぬが、半分はボーイ君自身の將來の地位、又はその他の爲に、今の中から一寸でも日本語をやつて置かうと云ふ、悪く云へば、私利の爲に發した事なのである。

6. 結語

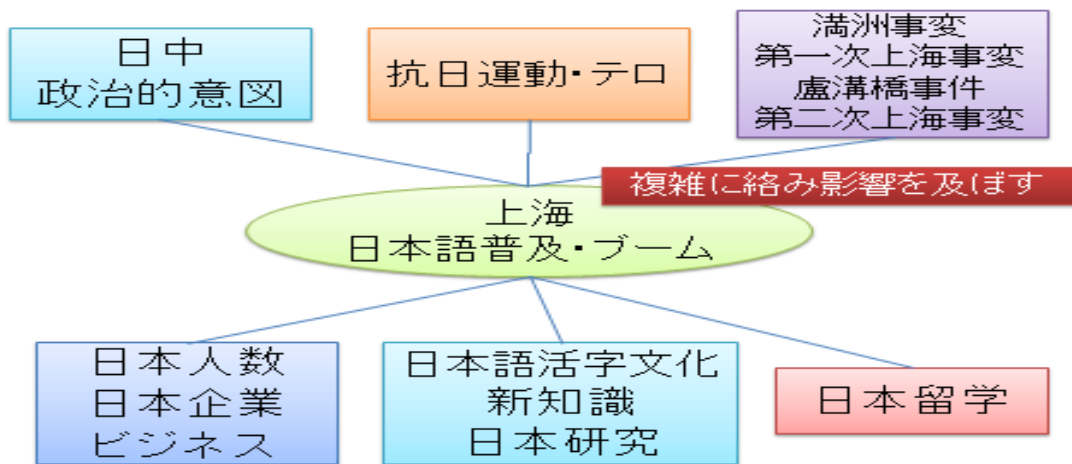
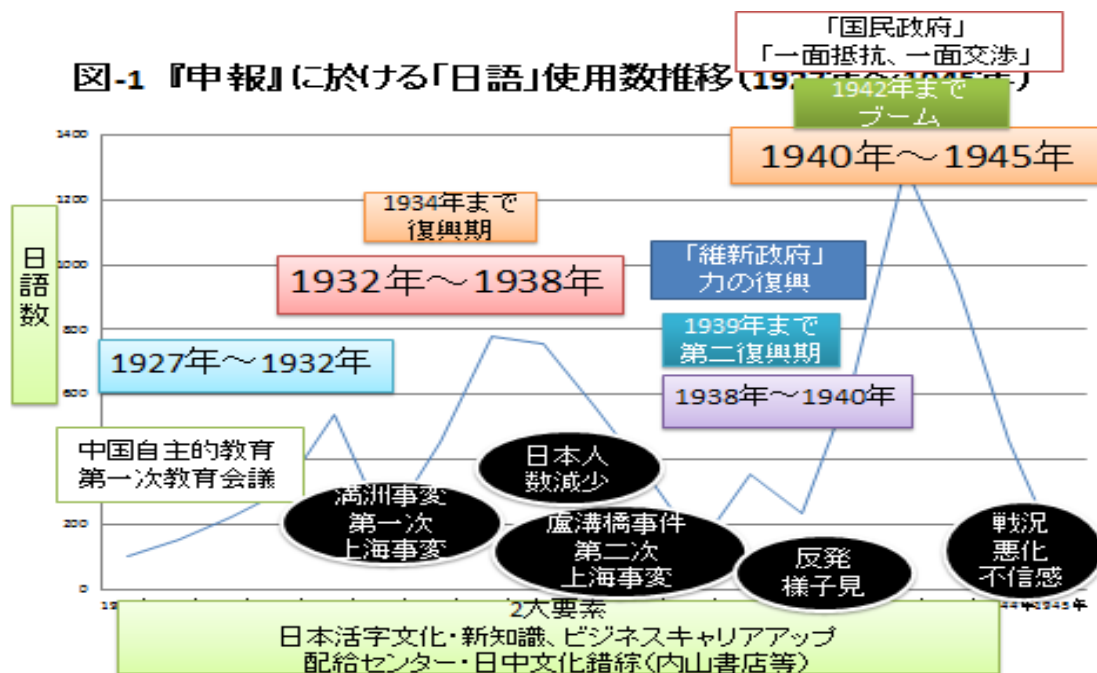


図-1 『申報』に於ける「日語」使用数推移 (1927年～1945年)



- ・ 政治的意図との距離感

- ・ 菊沖徳平『支那人の日本語研究』 太平出版印刷公司 1944 年

当時私達の日本語学習の動機は決して今日考へる様な日支親善、新秩序建設等と叫ぶ余裕のあるものではなかつた。即ち戦線の眞只中に於て、如何にして自己の生命を守るべきか、安全を見出すべきかであつて、その最善の方策は日本語習得であつた。